

輸出事業計画

※申請者名：愛知県食品輸出研究会

品目：加工食品 他

1. 輸出における現状と課題

【現 状】

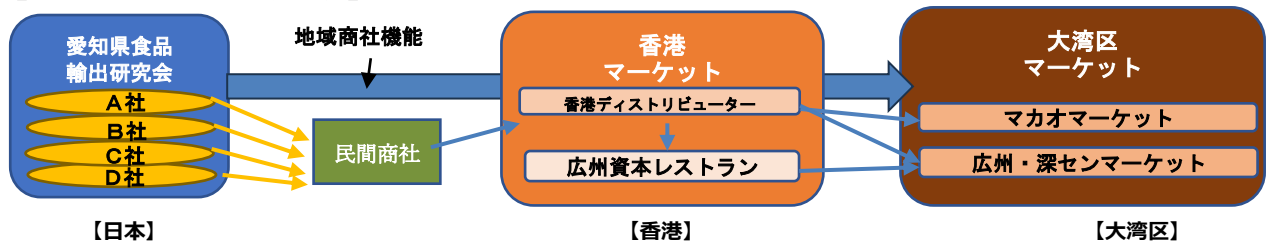
- 愛知県食品輸出研究会は、愛知県内の、海外販路開拓に積極的に取り組む食品関連事業者や農業者で構成される民間団体である。業種も愛知の食の多様性を反映し多岐にわたり、平成23年8月8日に発足して以来、継続して海外販路開拓を目指した取り組みを行っている（令和6年3月 会員数44社）。当時、全国各地の自治体が積極的に上海や香港でPRする中、消極的な愛知県の加工食品が海外マーケットにおいて埋没しかねない危機感からか活動を開始した。
- 研究会会員には、輸出経験豊富な会員から、輸出に関心があって未経験ながら参加している会員までさまざまであり、ターゲットとする相手国もさまざまであるが、これまでの活動から、輸出が容易でスキルを高めることが可能な香港、規制等ハードルは高いが大消費地であるアメリカ、経済成長著しいが輸入規制の厳しいベトナムをターゲットとする方向性を見出した。

【課題】

- 香港は日本食が定着し、大きなマーケットを形成している。一方、香港以外の大湾区エリアでは、日本食は普及しつつあるが、地域的な識別ができるほど成熟はしていない。当然、愛知の食文化としての認知がまだまだ十分ではない。
- アメリカでは、日系量販店、日系レストランを中心に日本食がある程度浸透し、それなりの規模でマーケットを形成しているが、白人系のマーケットに浸透できている和食は数少ない。
- ベトナムマーケットへの輸出は、動物性食品は工場登録・製品登録が必須で時間も要する。輸入時にはインポーターが製品登録を必要とするなど多くの規制があり、時間も必要とする。

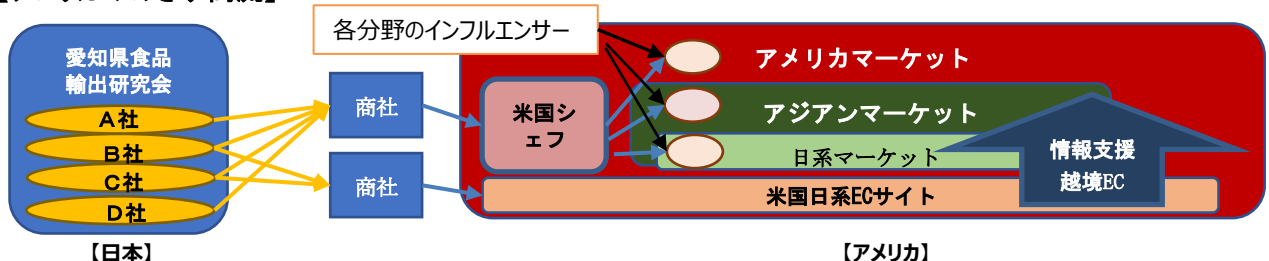
2. 輸出事業計画の取組内容

【香港・大湾区をめざす商流】



- 香港起点で大湾区エリアに対し、“愛知の食材”がスタンダードになって展開する目標をもって普及活動をしていく。具体的には、香港ディストリビューターを起点に、マカオルートを構築する。あわせて、香港に進出した広州資本のレストランを通じ、広州市場を開拓する

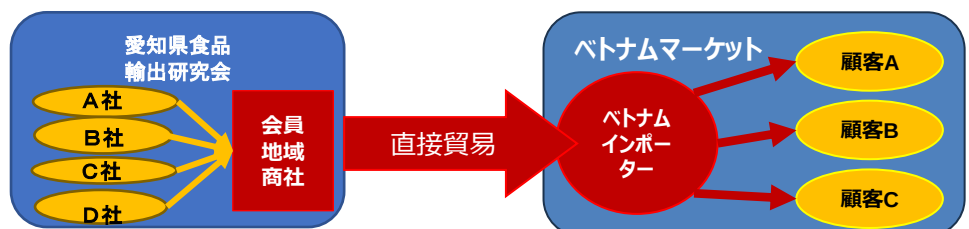
【アメリカをめざす商流】



- 日本食を良く理解し、アメリカの食に精通しているシェフを、愛知に招聘し理解を深めていながら、日系マーケットからアジアンマーケット、そして白人マーケットへと垣根なくつなげるため、インフルエンサーとしてシェフ仲間や関連するバイヤーへ情報発信をする仕組みを作る。さらに、そのシェフが取り組みやすい商流を構築すること、InstagramやECサイトを活用し、情報支援を通じ、インフルエンサーを増殖していくことをめざし、販路開拓を行う。

【ベトナムをめざす商流】

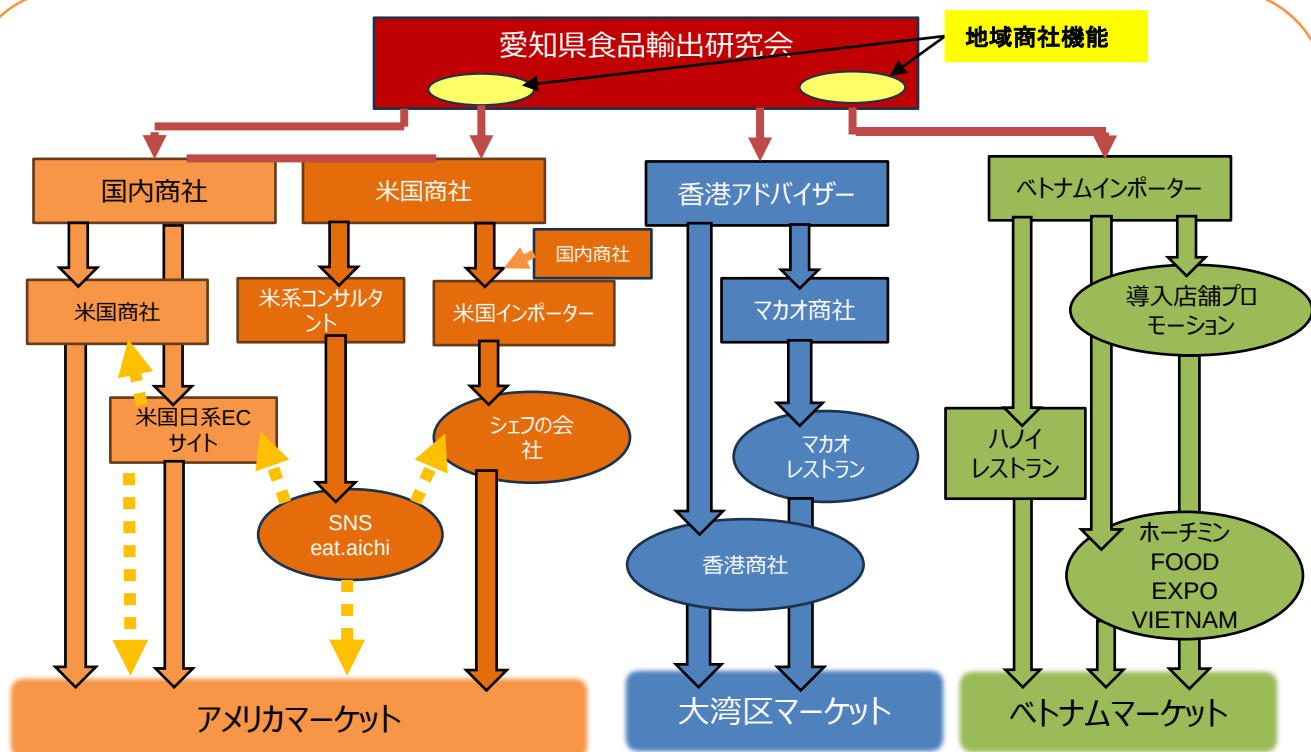
- 愛知県食品輸出研究会の中に地域商社機能確立し、ベトナム販路開拓を目指す企業の商品を仕入れ、直接貿易でベトナムに輸出を行い、インポーターがディストリビュートして販路拡大を行う。



研究会はプロモーション事業、展示会出展、デモンストレーション商談会を展開して販売支援を行う。

申請者名：愛知県食品輸出研究会

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



・愛知県食品輸出研究会

事業企画・運営・検証を行う事業主体。

・国内商社

アメリカ事業の運営企画を行う。アメリカ東海岸「DAIEI TRADING」、ECサイト「UMAMI INSIDER」と連携して、商品のポジショニング戦略を企画・コンサルティングを通じ事業を推進する。

□ 米国商社

1970年、ニューヨークのクイーンズ区に日本食レストランのサプライヤーとして設立。31以上のブランドの異なる日本食品を提供。従業員数は60名で、ニューヨーク、シカゴ、ワシントンDCにオフィスを持つ。本事業ではクラウン貿易と共同してリアルマーケットへの提案、検証を行う。

□ 米国日系ECサイト

2017年設立。和食ニーズが急拡大するニューヨークで、良質の製品を供給できる中小メーカーや生産者と共に、北米現地消費者の目線に立った「情報」と「モノ」を供給するプラットフォーム機能を持ったECサイト。ほん事業では、クラウン貿易と共同してオンラインでの情報発信と検証を行う。

・米国商社

Chris Jaeckle氏が経営するレストランコンサルティング会社。アメリカ地域商社事業を行う。地域商社事業では、インポーターの米国インポーターと連携し、神戸市の国内商社が輸出手続き支援及び米国商品ラベルを提供して、シェフ関連会社との直接貿易事業の実現を目指す。

※このスキームが実現が困難な場合はクラウン貿易－DAIEI TRADINGラインで実現を目指す。

・香港アドバイザー

大湾区事業運営企画を行う。マカオの「加藤屋食品有限公司」と連携し、加藤屋直営のマカオレストランで実施する愛知県食品プロモーション事業を企画、調整及び運営を行う。香港側からが大湾区全体へ流通をめざす。

・ベトナムインポーター

愛知県食品輸出研究会と連携してベトナム事業の企画運営を行う。導入店舗でのプロモーション事業では、店舗側との調整及びスタッフを派遣し事業を実施する。レストランデモンストレーション商談会事業では、ハノイの和食レストランとの調整、バイヤー招待、運営を行う。また、FOOD EXPO VNでは通訳業務を通じ運営支援、来場者にはインポーターとして商談支援を行う。

・(株) 平松食品

愛知県食品輸出研究会会長の平松賢介が代表を務める。財務関係の取りまとめを(株)平松食品総務管理部が行う。

申請者名：愛知県食品輸出研究会

4. 輸出目標額

品 目		輸出額（千円）	輸出量（Kg）	輸出相手国	備 考
味噌	現状（令和3年）	11,200	38,400	アメリカ・香港	
	目標（令和8年）	55,200	159,000	アメリカ・香港・マカオ・中国・ベトナム	
醤油	現状（令和3年）	11,807	17,760	アメリカ・香港	
	目標（令和8年）	46,000	68,600	アメリカ・香港・マカオ・中国・ベトナム	
鶏肉	現状（令和3年）	20,200	32,000	香港	
	目標（令和8年）	34,220	54,000	香港・マカオ・中国	
菓子	現状（令和3年）	0	0	香港	
	目標（令和8年）	2,700	2,550	香港・マカオ・中国・ベトナム	
つくだ煮	現状（令和3年）	7,060	5,930	アメリカ・香港	
	目標（令和8年）	22,450	18,500	アメリカ・香港・マカオ・中国・ベトナム	
乾麺	現状（令和3年）	3,710	5,345	アメリカ・香港	
	目標（令和8年）	6,099	8,830	アメリカ・香港・マカオ・中国・ベトナム	
漬物	現状（令和3年）	13,000	20,000	アメリカ	
	目標（令和8年）	16,500	25,000	アメリカ	
抹茶	現状（令和3年）	45,000	7,500	アメリカ・香港	
	目標（令和8年）	93,200	14,900	アメリカ・香港・マカオ・中国・ベトナム	
抹茶加工品	現状（令和3年）	177	64	香港	
	目標（令和8年）	3,446	598	アメリカ・香港・マカオ・中国・ベトナム	
小麦加工品	現状（令和3年）	42,326	527,000	香港	
	目標（令和8年）	102,000	1,260,000	アメリカ・香港・マカオ・中国	
大麦加工品	現状（令和3年）	2,625	10,500	香港	
	目標（令和8年）	4,580	18,400	アメリカ・香港・マカオ・中国・ベトナム	
みりん	現状（令和3年）	6,140	－	アメリカ・香港	
	目標（令和8年）	11,900	－	アメリカ・香港・マカオ・中国	
海苔	現状（令和3年）	80,000	2,200千枚	アメリカ・香港	
	目標（令和8年）	101,500	2,700千枚	アメリカ・香港・マカオ・中国・ベトナム	
魚肉練り製品	現状（令和3年）	830	550	アメリカ・香港	
	目標（令和8年）	1,200	790	アメリカ・香港・マカオ・中国	
水産珍味	現状（令和3年）	3,300	3,000	アメリカ	
	目標（令和8年）	3,800	3,450	アメリカ	
水産加工品	現状（令和3年）	200	200	香港	
	目標（令和8年）	2,000	2,000	香港・マカオ・中国	
うなぎ	現状（令和3年）	4,550	650	香港	
	目標（令和8年）	6,825	975	アメリカ・香港・マカオ・中国	
合計	現状（令和3年）	252,125	－	アメリカ・香港	
	目標（令和8年）	513,620	－	アメリカ・香港・マカオ・中国・ベトナム	